

[No. 1]

次の a～e の文は、測量法(昭和24年法律第188号)に規定された事項について述べたものである。明らかに間違っているものだけの組合せはどれか。次の中から選べ。

- a. 「基本測量」とは、すべての測量の基礎となる測量で、国土地理院又は公共団体の行うものをいう。
- b. 何人も、国土地理院の長の承諾を得ないで、基本測量の測量標を移転し、汚損し、その他その効用を害する行為をしてはならない。
- c. 基本測量の測量成果を使用して基本測量以外の測量を実施しようとする者は、あらかじめ、国土地理院の長の承認を得なければならない。
- d. 測量計画機関は、公共測量を実施しようとするときは、当該公共測量に関し作業規程を定め、あらかじめ、国土地理院の長の承認を得なければならない。
- e. 技術者として基本測量又は公共測量に従事する者は、測量士又は測量士補でなければならない。

- 1. a, c
- 2. a, d
- 3. b, e
- 4. c, d
- 5. d, e



[No. 2]

次の a～e の文は、公共測量における測量作業機関の対応について述べたものである。明らかに間違っているものだけの組合せはどれか。次の中から選べ。

- a. 測量計画機関から個人が特定できる情報を記載した資料を貸与されたことから、紛失しないよう厳重な管理体制の下で作業を行った。
- b. 基準点測量の現地作業中に雨が降り続き、スマートフォンから警戒レベル3の防災気象情報も入手したことから、現地の作業責任者が判断して作業を一時中止し、作業員全員を安全な場所に避難させた。
- c. 水準測量における新設点の観測を速やかに行うため、現地の作業責任者からの指示に従い、永久標識設置から観測までの工程を同一の日に行った。
- d. 現地作業で伐採した木材と使用しなかった資材を現地で処分するため、作業地付近の草地で焼却した後に、灰などの焼却したゴミを残さないように清掃した。
- e. 空中写真撮影において、撮影終了時の点検中に隣接空中写真間の重複度が規定の数値に満たないことが分ったが、精度管理表にそのまま記入した。

- 1. a, b
- 2. a, c
- 3. b, e
- 4. c, d
- 5. d, e



[No. 3]

次の a ~ c の各問の答えとして最も近いものの組合せはどれか。次の中から選べ。

ただし、円周率 $\pi = 3.14$ とする。

なお、関数の値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

- a. $30^\circ 11' 26''$ を10進法に換算すると幾らか。
- b. 120° をラジアンに換算すると幾らか。
- c. 三角形ABCで辺 $AB = 5.0$ m, 辺 $BC = 7.0$ m, 辺 $AC = 4.0$ m としたとき, $\angle ABC$ の角度は幾らか。

	a	b	c
1.	30.19055°	1.05 ラジアン	44°
2.	30.19055°	2.09 ラジアン	34°
3.	30.19055°	2.09 ラジアン	44°
4.	30.61666°	1.05 ラジアン	34°
5.	30.61666°	2.09 ラジアン	44°



[No. 4]

次の a～d の文は、地球の形状及び位置の基準について述べたものである。 ～ に入る語句の組合せとして最も適当なものはどれか。次の中から選べ。

- a. 測量法(昭和24年法律第188号)に規定する世界測地系では、回転楕円体として を採用しており、地球上の位置は世界測地系に従って測定された地理学的経緯度及び平均海面からの高さで表すことができる。
- b. ジオイドは、重力の方向に であり、地球を回転楕円体で近似した表面に対して凹凸がある。
- c. 地心直交座標系の座標値から、回転楕円体上の緯度、経度及び に変換できる。
- d. GNSS測量などによって得られるその場所の から を減ずることによって を計算することができる。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1.	GRS80	垂直	楕円体高	ジオイド高	標高
2.	GRS80	垂直	ジオイド高	標高	楕円体高
3.	GRS80	平行	標高	楕円体高	ジオイド高
4.	WGS84	平行	標高	ジオイド高	楕円体高
5.	WGS84	垂直	楕円体高	ジオイド高	標高



[No. 5]

公共測量における1級基準点測量において、トータルステーションを用いて水平角を観測し、表5の観測角を得た。 ~ に入る数値のうち明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

表5

目盛	望遠鏡	番号	視準点	観測角	結果	倍角	較差	倍角差	観測差
0°	r	1	303	0° 0' 20"	0° 0' 0"				
		2	(1)	97° 46' 19"	<input type="text" value="ア"/>	<input type="text" value="オ"/>	<input type="text" value="キ"/>		
	l	2		277° 46' 26"	<input type="text" value="イ"/>				
		1		180° 0' 28"	0° 0' 0"				
								<input type="text" value="ケ"/>	<input type="text" value="コ"/>
90°	l	1		270° 0' 21"	0° 0' 0"				
		2		7° 46' 20"	<input type="text" value="ウ"/>	<input type="text" value="カ"/>	<input type="text" value="ク"/>		
	r	2		187° 46' 13"	<input type="text" value="エ"/>				
		1		90° 0' 11"	0° 0' 0"				

1. 結果のアは97° 45' 59" であり、イは97° 45' 58" である。
2. 結果のウは97° 45' 59" であり、エは97° 46' 2" である。
3. 倍角のオは117" であり、カは121" である。
4. 較差のキは+1" であり、クは-3" である。
5. 倍角差のケは4" であり、観測差のコは2" である。



[No. 6]

次の a～d の文は、測量における誤差について述べたものである。明らかに間違っているものだけの組合せはどれか。次の中から選べ。

- a. 測量機器の正確さには限度があり、観測時の環境条件の影響を受けるため、十分注意して距離や角度などを観測しても、得られた観測値は真値にわずかな誤差が加わった値となる。
- b. 系統誤差とは、測量機器の特性、大気の状態の影響など一定の原因から発生する誤差である。この誤差は、観測方法を工夫することによりすべて消去できる。
- c. 偶然誤差とは、発生要因に特段の因果関係がないため、観測方法を工夫しても消去できないような誤差である。この誤差は、観測値の平均をとれば小さくできる。
- d. 最確値は最も確からしいと考えられる値であり、一般的に最小二乗法で求めた値である。

- 1. aのみ
- 2. bのみ
- 3. b, c
- 4. c, d
- 5. 間違っているものはない



[No. 7]

図7に示すとおり、新点Aの標高を求めるため、既知点Bから新点Aに対して高低角 α 及び斜距離Dの観測を行い、表7の結果を得た。新点Aの標高は幾らか。最も近いものを次の中から選べ。

ただし、既知点Bの器械高*i*Bは1.40 m、新点Aの目標高*f*Aは1.60 m、既知点Bの標高は350.00 m、両差は0.10 mとする。また、斜距離Dは気象補正、器械定数補正及び反射鏡定数補正が行われているものとする。

なお、関数の値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

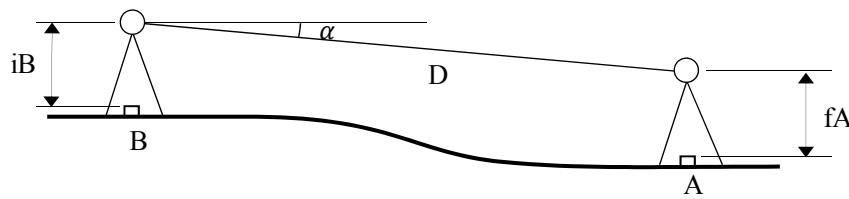


図7

表7

α	$-3^{\circ} 00' 00''$
D	950.00 m

1. 297.38 m
2. 300.08 m
3. 300.18 m
4. 300.38 m
5. 303.38 m



[No. 8]

次の a ~ e の文は、GNSS測量機を用いた基準点測量(以下「GNSS測量」という。)について述べたものである。 ~ に入る語句の組合せとして最も適当なものはどれか。次の中から選べ。

- a. GNSS測量機を用いた1級基準点測量は、原則として、 により行う。
- b. アンテナ位相特性の影響による誤差は、各観測点のGNSSアンテナを 方向に整置することで軽減することができる。
- c. GNSS測量では、 が確保できなくても観測できる。
- d. の影響による誤差は、GNSS衛星から送信される2周波の信号を用いて解析することにより軽減することができる。
- e. GNSS衛星から直接到達する電波以外に、構造物などに当たって反射した電波が受信される現象を といい、測量の誤差の原因となる。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1.	結合多角方式	不特定	観測点上空の視界	対流圏	マルチパス
2.	結合多角方式	同一	観測点間の視通	電離層	マルチパス
3.	単路線方式	同一	観測点間の視通	対流圏	サイクルスリップ
4.	単路線方式	同一	観測点上空の視界	対流圏	サイクルスリップ
5.	単路線方式	不特定	観測点間の視通	電離層	マルチパス



[No. 9]

次の文は、公共測量におけるセミ・ダイナミック補正について述べたものである。

ア ~ エ に入る語句の組合せとして最も適当なものはどれか。次の中から選べ。

セミ・ダイナミック補正とは、プレート運動に伴う ア 地殻変動による基準点間のひずみの影響を補正するため、国土地理院が電子基準点などの観測データから算出し提供している イ を用いて、基準点測量で得られた測量結果を補正し、 ウ (国家座標)の基準日(元期)における測量成果を求めるものである。 イ の提供範囲は、全国(一部離島を除く)である。

三角点や公共基準点を既知点とする測量を行う場合であれば、既知点間の距離が短く相対的な位置関係の変化も小さいため、地殻変動によるひずみの影響はそれほど問題にならない。しかし、電子基準点のみを既知点として測量を行う場合は、既知点間の距離が長いいため地殻変動によるひずみの影響を考慮しないと、近傍の基準点との間に不整合を生じる。例えば、地殻変動による平均のひずみ速度を約0.2 ppm/yearと仮定した場合、電子基準点の平均的な間隔が約25 kmであるため、電子基準点間には10年間で約 エ mmの相対的な位置関係の変化が生じる。

このような状況で網平均計算を行っても、精度の良い結果は得られないが、セミ・ダイナミック補正を行うことにより、測量を実施した今期の観測結果から、 ウ (国家座標)の基準日(元期)において得られたであろう測量成果を高精度に求めることができる。

	ア	イ	ウ	エ
1.	定常的な	地殻変動補正パラメータ	測地成果2011	50
2.	突発的な	標高補正パラメータ	測地成果2011	50
3.	定常的な	標高補正パラメータ	測地成果2000	20
4.	定常的な	地殻変動補正パラメータ	測地成果2011	20
5.	突発的な	標高補正パラメータ	測地成果2000	20



[No. 10]

次の文は、公共測量における水準測量を実施するときに遵守すべき事項について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 1日の観測は、水準点で終わることを原則とする。なお、やむを得ず固定点で終わる場合は、観測の再開時に固定点の異常の有無を点検できるような方法で行うものとする。
2. 1級水準測量では、観測は1視準1読定とし、後視→前視→前視→後視の順に標尺を読定する。
3. 1級水準測量及び2級水準測量の再測は、同方向の観測値を採用しないものとする。
4. 往復観測を行う水準測量において、水準点間の測点数が多い場合は、適宜、固定点を設け、往路及び復路の観測に共通して使用する。
5. 2級水準測量では、1級標尺又は2級標尺を使用する。



[No. 11]

図11は、水準点Aから固定点(1)、(2)及び(3)を経由する水準点Bまでの路線を示したものである。この路線で1級水準測量を行い、表11に示す観測結果を得た。再測すべき観測区間はどれか。次の中から選べ。

ただし、往復観測値の較差の許容範囲は、 S を観測距離(片道, km単位)としたとき、 $2.5 \text{ mm}\sqrt{S}$ とする。

なお、関数の値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

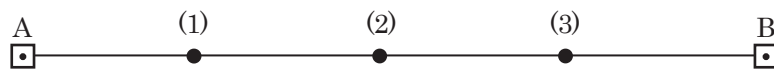


図11

表11

観測区間	観測距離	往路の観測高低差	復路の観測高低差
A ~ (1)	380 m	+ 0.1908 m	- 0.1901 m
(1) ~ (2)	320 m	- 3.2506 m	+ 3.2512 m
(2) ~ (3)	350 m	+ 1.2268 m	- 1.2254 m
(3) ~ B	400 m	+ 2.3174 m	- 2.3169 m

1. A ~ (1)
2. (1) ~ (2)
3. (2) ~ (3)
4. (3) ~ B
5. 再測の必要はない



[No. 12]

次の a～e の文は、水準測量における誤差について述べたものである。明らかに間違っているものだけの組合せはどれか。次の中から選べ。

- a. レベルと標尺の間隔が等距離となるように整置して観測することで、視準線誤差を消去できる。
- b. 標尺を2本1組とし、測点数を偶数にすることで、標尺の零点誤差を消去できる。
- c. 傾斜地において、標尺の最下部付近の視準を避けて観測すると、大気による屈折誤差を小さくできる。
- d. レベルと標尺との距離を短くし、レベルと標尺の間隔が等距離となるように整置して観測することで、両差を小さくできる。
- e. レベルの望遠鏡を常に特定の標尺に対向させてレベルを整置し観測することで、鉛直軸誤差を小さくできる。

- 1. a, e
- 2. bのみ
- 3. c, d
- 4. eのみ
- 5. 間違っているものはない



[No. 13]

公共測量における1級水準測量では、使用する標尺に対して温度の影響を考慮した標尺補正を行う必要がある。公共測量により、水準点A、Bの間で1級水準測量を実施し、表13に示す結果を得た。標尺補正を行った後の水準点A、B間の観測高低差は幾らか。最も近いものを次の中から選べ。

ただし、観測に使用した標尺の標尺改正数は 20°C において $+6.0 \times 10^{-6}$ m/m、膨張係数は $+1.5 \times 10^{-6}/^{\circ}\text{C}$ とする。

なお、関数の値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

表13

観測路線	観測距離	観測高低差	気温
A→B	2.1 km	+ 32.2200 m	28°C

1. + 32.2185 m
2. + 32.2194 m
3. + 32.2198 m
4. + 32.2206 m
5. + 32.2215 m



[No. 14]

図14は、ある道路の縦断面を模式的に示したものである。この道路において、トータルステーションを用いた縮尺 1/500 の地形図作成を行うため、標高 125 m の点Aにトータルステーションを設置し点Bの観測を行ったところ、高低角 -30° 、斜距離 86 m の結果を得た。また、同じ道路上にある点Cの標高は 42 m であった。点Bと点Cを結ぶ道路は、傾斜が一定でまっすぐな道路である。

このとき、点B、C間の水平距離を 300 m とすると、点Bと点Cを結ぶ道路とこれを横断する標高 60 m の等高線との交点Xは、この地形図上で点Cから何 cm の地点か。最も近いものの中から選べ。

なお、関数の値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

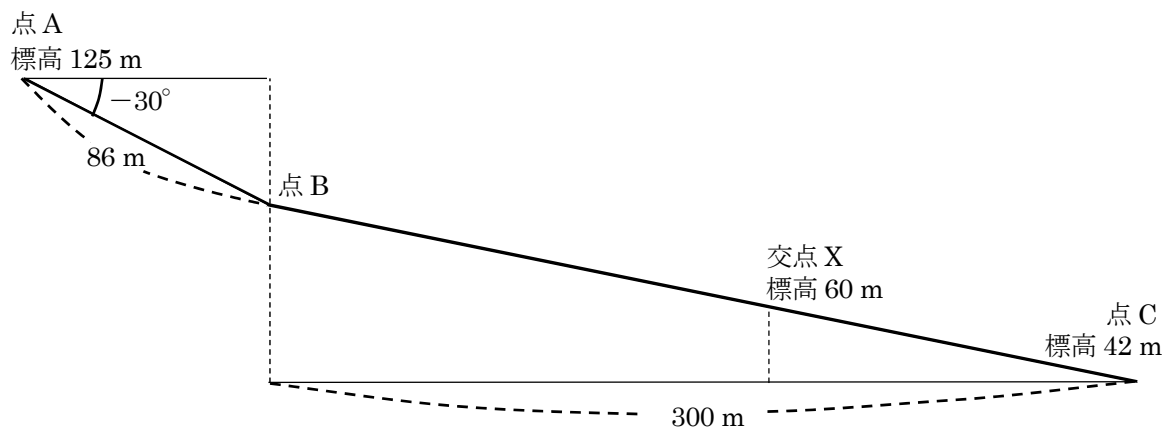


図14

1. 8.6 cm
2. 13.5 cm
3. 16.2 cm
4. 27.0 cm
5. 33.0 cm



[No. 15]

次の文は、公共測量における地形測量のうち現地測量について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 地形、地物などの測定においては、トータルステーションとGNSS測量機を併用しなければならない。
2. 現地測量は、4級基準点、簡易水準点又はこれと同等以上の精度を有する基準点に基づいて実施する。
3. 現地測量により作成する数値地形図データの地図情報レベルは、原則として1000以下とし250、500及び1000を標準とする。
4. 細部測量において、携帯型パーソナルコンピュータなどの図形処理機能を用いて、図形表示しながら計測及び編集を現地で直接行う方式をオンライン方式という。
5. 補備測量においては、編集作業で生じた疑問事項及び重要な表現事項、編集困難な事項、現地調査以降に生じた変化に関する事項などが、現地において確認及び補備すべき事項である。



[No. 16]

数値地形モデルの標高値の点検を、現地の5地点で計測した標高値との比較により実施したい。各地点における数値地形モデルの標高値と現地で計測した標高値は表16のとおりである。標高値の精度を点検するための値 σ は幾らか。式16を用いて算出し、最も近いものを次の中から選べ。なお、関数の値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

$$\sigma = \sqrt{\frac{(\text{地点1の標高値の差})^2 + (\text{地点2の標高値の差})^2 + \dots + (\text{地点Nの標高値の差})^2}{N}} \dots\dots\dots \text{式16}$$

N : 計測地点の数

表16

地点番号	現地で計測した標高値(m)	数値地形モデルの標高値(m)
1	29.3	29.5
2	72.1	71.5
3	11.8	12.2
4	103.9	103.4
5	56.4	56.3

- 1. 0.16 m
- 2. 0.18 m
- 3. 0.35 m
- 4. 0.40 m
- 5. 0.60 m



[No. 17]

次の a～e の文は、写真地図について述べたものである。明らかに間違っているものだけの組合せはどれか。次の中から選べ。

ただし、注記など重ね合わせるデータはないものとする。

- a. 写真地図は、図上で水平距離を計測することができない。
- b. 写真地図は、図上で土地の傾斜を計測することができない。
- c. 写真地図は、写真地図データファイルに位置情報が付加されていなくても、位置情報ファイルがあれば地図上に重ね合わせるができる。
- d. 写真地図は、正射投影されているので、隣接する写真が重複していれば実体視することができる。
- e. 写真地図には、平たんな場所より起伏の激しい場所の方が、標高差の影響によるゆがみが残りやすい。

- 1. a, c
- 2. a, d
- 3. b, d
- 4. b, e
- 5. c, e



[No. 18]

次の文は、無人航空機(以下「UAV」という。)で撮影した空中写真を用いた公共測量について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 使用する UAV は、安全確保の観点から、飛行前後における適切な整備や点検を行うとともに、必要な部品の交換などの整備を行う。
2. 航空法(昭和27年法律第231号)では、人口集中地区や空港周辺、高度150 m以上の空域で UAV を飛行させる場合には、国土交通大臣による許可が必要となる。
3. UAV による公共測量は、地表が完全に植生に覆われ、地面が写真に全く写らないような地区で実施することは適切でない。
4. UAV により撮影された空中写真を用いて作成する三次元点群データの位置精度を評価するため、標定点のほかに検証点を設置する。
5. UAV により撮影された空中写真を用いて三次元点群データを作成する場合は、デジタルステレオ図化機を使用しないので、隣接空中写真との重複は無くてもよい。



[No. 19]

画面距離10 cm, 画面の大きさ26,000画素×17,000画素, 撮像面での素子寸法4 μm のデジタル航空カメラを用いて鉛直空中写真を撮影した。撮影基準面での地上画素寸法を15 cmとした場合, 標高0 mからの撮影高度は幾らか。最も近いものを次の中から選べ。

ただし, 撮影基準面の標高は500 mとする。

なお, 関数の値が必要な場合は, 巻末の関数表を使用すること。

1. 3,250 m
2. 3,750 m
3. 4,250 m
4. 4,750 m
5. 5,250 m



[No. 20]

次の a～d の文は、公共測量における航空レーザ測量について述べたものである。

～ に入る語句の組合せとして最も適当なものはどれか。次の中から選べ。

- a. 航空レーザ測量では、 及び点検のための航空レーザ用数値写真を同時期に撮影する。
- b. 航空レーザ測量システムは、レーザ測距装置、 ，解析ソフトウェアなどにより構成されている。
- c. グラウンドデータとは、取得したレーザ測距データから、 以外のデータを取り除く 処理を行い作成した、 の三次元座標データである。
- d. 三次元計測データの点検及び補正を行うために を設置する必要がある。

	ア	イ	ウ	エ
1.	リサンプリング	GNSS/IMU装置	水面	簡易水準点
2.	フィルタリング	オドメーター	水面	調整用基準点
3.	リサンプリング	オドメーター	地表面	簡易水準点
4.	フィルタリング	GNSS/IMU装置	地表面	簡易水準点
5.	フィルタリング	GNSS/IMU装置	地表面	調整用基準点



[No. 21]

国土地理院は、過去に起きた津波、洪水、火山災害、土砂災害などの自然災害の情報を伝える新たな地図記号「自然災害伝承碑」を電子地形図25000などに掲載する取組を行っている。

図21は、電子地形図25000の一部(縮尺を変更)である。この図にある自然災害伝承碑(㊦)の経緯度で最も近いものを次のページの中から選べ。

ただし、表21に示す数値は図の中にある地図記号の経緯度を表している。また、図21では自然災害伝承碑の地図記号を()で囲んでいる。

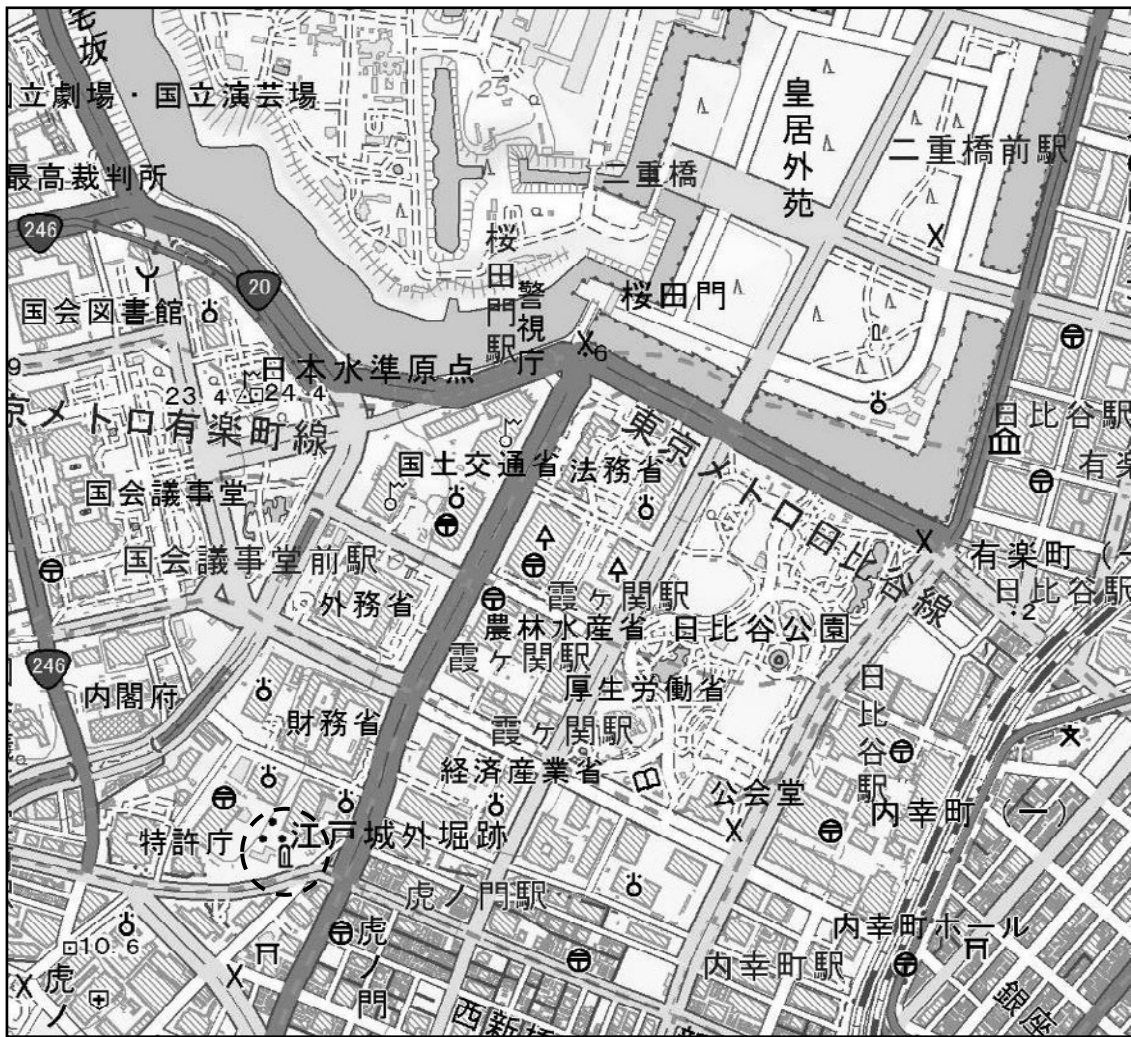
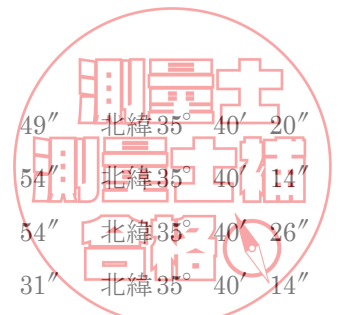


図21

表21

地図記号	経度	緯度
博物館	東経139° 45′ 38″	北緯35° 40′ 35″
病院	東経139° 44′ 43″	北緯35° 40′ 08″

1. 東経139° 44′ 49″ 北緯35° 40′ 20″
2. 東経139° 44′ 54″ 北緯35° 40′ 14″
3. 東経139° 44′ 54″ 北緯35° 40′ 26″
4. 東経139° 45′ 31″ 北緯35° 40′ 14″
5. 東経139° 45′ 50″ 北緯35° 40′ 41″



[No. 22]

次の a ～ e の文は、平面直角座標系(平成14年国土交通省告示第9号)について述べたものである。明らかに間違っているものだけの組合せはどれか。次の中から選べ。

- a. 平面直角座標系に用いることが定められている地図投影法は、ガウスの等角二重投影法である。
- b. 平面直角座標系におけるY軸は、座標系原点において子午線に直交する軸とし、真東に向かう方向を正としている。
- c. 平面直角座標系では、日本全国を19の座標系に分けている。
- d. 平面直角座標系における座標系原点はすべて赤道にはない。
- e. 各平面直角座標系の原点を通る子午線上における縮尺係数は0.9999であり、この子午線から離れるに従って縮尺係数は小さくなる。

- 1. a, b
- 2. a, e
- 3. b, d
- 4. c, d
- 5. c, e



[No. 23]

次の文は、一般的な地図編集の原則について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 地図編集においては、編集の基となる地図の縮尺は、新たに作成する地図の縮尺より小さいものを採用する。
2. 取捨選択に当たっては、表示対象物は縮尺に応じて適切に取捨選択し、かつ正確に表示する。また、重要度の高い対象物を省略することのないようにする。
3. 総描に当たっては、現地の形状と相似性を保ち、形状の特徴を失わないようにする。必要に応じて形状を多少修飾して現状を理解しやすく総描する。
4. 公共測量において、地図情報レベル2500の数値地形図に表示する地物の水平位置の転位は、原則として行わない。
5. 注記とは、文字又は数値による表示をいい、地域、人工物、自然物等の固有の名称、特定の記号のないものの名称及び種類、標高、等高線数値などに用いる。



[No. 24]

次の文は、GISで扱うデータ形式やGISの機能について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. ラスタデータは、地図や画像などを微小な格子状の画素(ピクセル)に分割し、画素ごとに輝度や濃淡などの情報を与えて表現するデータである。
2. ベクタデータは、図形や線分を、座標値を持った点又は点列で表現したデータであり、線分の長さや面積を求める幾何学的処理が容易にできる。
3. ベクタデータで構成されている地物に対して、その地物から一定の距離内にある範囲を抽出し、その面積を求めることができる。
4. ネットワーク構造化されていない道路中心線データに、車両等の最大移動速度の属性を与えることで、ある地点から指定時間内で到達できる範囲がわかる。
5. GISを用いると、ベクタデータに付属する属性情報をそのデータの近くに表示することができる。



[No. 25]

10年前に水平に整地した図25-1の土地ABCDにおいて、先日、水準測量を行ったところ、地盤が不等沈下していたことが判明した。観測点の位置関係及び沈下量は、図25-1及び表25に示すとおりである。盛土により、整地された元の地盤高に戻すには、どれだけの土量が必要か。図25-2の式①を用いて算出し、最も近いものを次のページの中から選べ。

ただし、盛土による新たな沈下の発生は考えないものとする。

なお、関数の値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

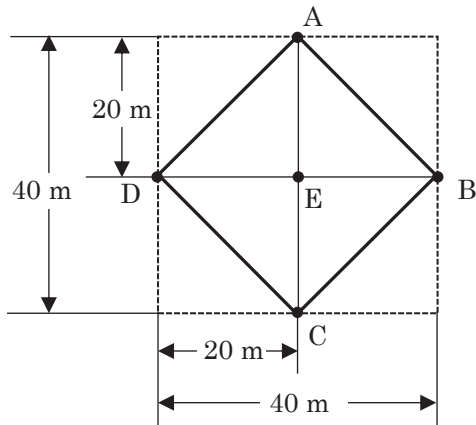


図25-1

表25

観測点	沈下量(m)
A	0.3
B	0.2
C	0.3
D	0.2
E	0.1

下図はある三角柱で不等沈下が起きたときの模式図である。この図において、不等沈下後の区画△PQRは平面であり、不等沈下の変位は鉛直成分のみとすると、不等沈下によって失われた体積は、式①で表される。

$$V = \frac{(a+b+c)}{3} S \dots\dots\dots \text{式①}$$

- V: 不等沈下によって失われた体積
- a, b, c: 沈下量
- S: 三角柱の底面積(水平面積)

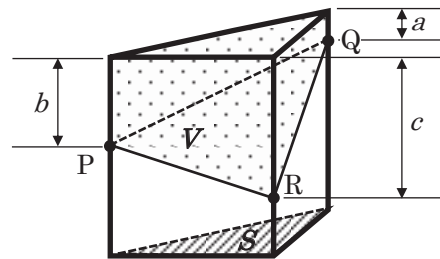


図25-2

1. 140 m³
2. 160 m³
3. 180 m³
4. 200 m³
5. 400 m³



[No. 26]

図26に示すように、点Aを始点、点Bを終点とする円曲線の道路の建設を計画している。
 曲線半径 $R = 200$ m, 交角 $I = 112^\circ$ としたとき、建設する道路の点Aから円曲線の中点Cまでの弦長は幾らか。最も近いものを次の中から選べ。
 なお、関数の値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

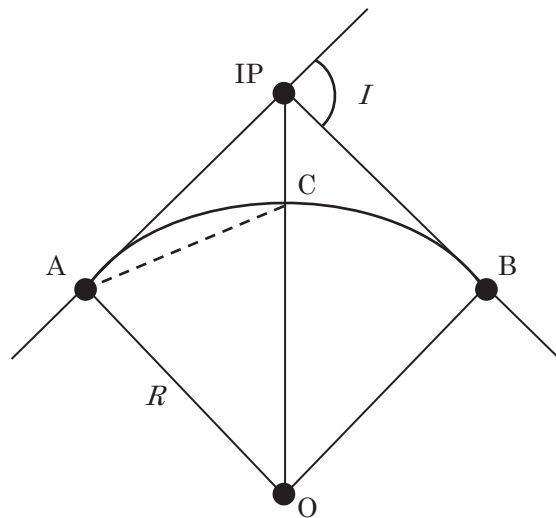


図26

1. 152 m
2. 172 m
3. 188 m
4. 195 m
5. 202 m



[No. 27]

図27は、境界点A, B, C, Dの順に直線で結んだ土地を表したもので、土地を構成する各境界点の平面直角座標系(平成14年国土交通省告示第9号)に基づく座標値は表27のとおりである。

公共測量によって、土地ABCDの面積の90%となる長方形AEFDに整えたい。このとき境界点FのX座標値は幾らか。最も近いものを次の中から選べ。

なお、関数の値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

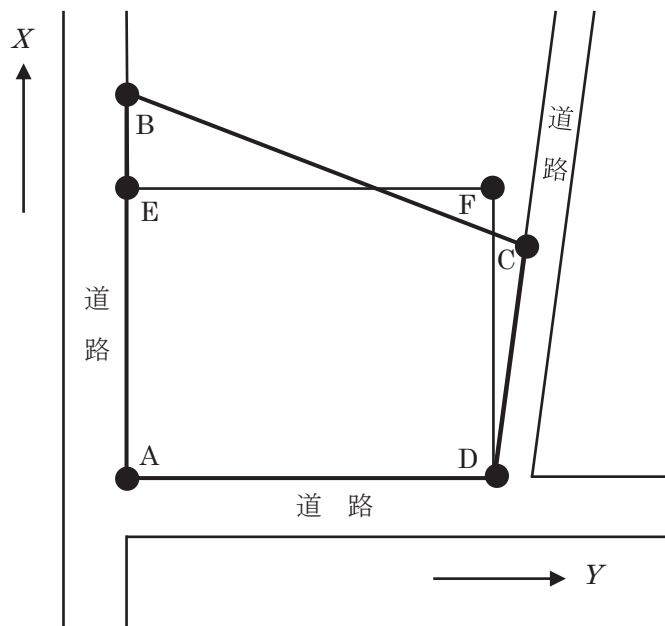


図27

表27

境界点	X座標(m)	Y座標(m)
A	-20.630	-17.800
B	+79.370	-17.800
C	+39.370	+86.200
D	-20.630	+78.200

1. +49.430 m
2. +53.870 m
3. +55.120 m
4. +58.630 m
5. +75.750 m



[No. 28]

次の文は、公共測量における河川測量について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 水準基標測量とは、定期縦断測量の基準となる水準基標の標高を定める作業をいう。
2. 水準基標は、水位標に近接した位置に設置するものとする。
3. 定期縦断測量は、左右両岸の距離標の標高並びに堤防の変化点の地盤及び主要な構造物について、距離標からの距離及び標高を測定するものとする。
4. 定期横断測量は、陸部において堤内地の20 m～50 mの範囲についても行う。
5. 深浅測量とは、河川などにおいて水深及び測深位置を測定し、縦断面図データファイルを作成する作業をいう。

